

ボランティアスキルアップ事業

WA!んぱくキッズの森もりキャンプ(登録ボランティア自主企画キャンプ)

1 趣旨

立山青少年自然の家の登録ボランティアが、自然の中で元気に遊び、自然体験活動の大好きな子供たちを増やすというねらいの下、小学校低学年を対象としたキャンプを企画・実施している。さらに、ボランティアが中心となって創意工夫した活動に取り組むことで、ボランティアのスキルアップを目指している。

2 期日

- ①令和元年 6月 1日(土)～2日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ夏
- ②令和元年 10月26日(土)～27日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ秋
- ③令和2年 2月22日(土)～23日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ冬

3 対象・定員

- ①小学校2年生 30名
- ②小学校1年生 24名
- ③小学校1、2年生 30名



4 参加人数/応募人数

- ①27名/27名
- ②24名/34名
- ③29名/38名

5 スタッフ

- ①法人ボランティア(富山大、富山国際大)18名
国立立山青少年自然の家職員
- ②法人ボランティア(富山大、富山国際大、高校生)15名
国立立山青少年自然の家職員
- ③法人ボランティア(富山大、富山国際大、高校生)17名
国立立山青少年自然の家職員



6 共催、後援

立少ボランティアの会(共催)
富山・石川・新潟各県教育委員会(後援)、北日本新聞社(後援)

7 日程

- ①「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 春」
令和元年6月1日(土)～2日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
6月1日(土) 1日目	○はじめのつどい ○仲間づくりタイム	○森で遊ぼう ○野外炊事(豚汁)	○夕方ハイク ○就寝(本館泊)
6月2日(日) 2日目	○朝食(食堂) ○来拝山登山	○ふりかえり ○おわりのつどい	

- ②「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 秋」
令和元年10月26日(土)～27日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
10月26日(土) 1日目	○はじめのつどい ○仲間づくりタイム	○秋の森の冒険 ○焼き芋 ○野外炊事(シチュー)	○就寝(本館泊)
10月27日(日) 2日目	○自然物を使った 制作活動	○ふりかえり ○おわりのつどい	

③ 「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 冬」
令和2年 2月22日(土)～23日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
2月22日(土) 1日目	○はじめのつどい ○仲間づくりタイム ○昼食(食堂)	○雪上ビンゴ ○障害物レース ○リラックスタイム	○キャンドルサービス ○就寝(本館泊)
2月23日(日) 2日目	○館内ウォークラリー ○雪遊び ○昼食(食堂)	○ふりかえり ○おわりのつどい	

8 成果

- ボランティアの振り返りカードを用い、ボランティア活動に見通しをもって取り組めるようにした。個別に職員からコメントを入れ、事業前の個人の目標をカードに記入する際に、前回の記録とコメントを見返すことで、明確な目標を意識することができた。
- 事業全体の振り返りを毎回行っていたが、十分に次回に活かされていなかったため、引き継ぎ書を作成し、次回の代表者に確実にわたるようにした。プログラムごとに振り返りが明記され、実施可能かどうかなどの判断材料となり、企画運営に有効であった。
- 事業企画スタートの1回目の打ち合わせでは、企画担当であるプログラムリーダーと担当職員が同席して、心構えやキャンプのねらい等を確認することで、見通しをもってキャンププログラムの選定、考案、企画を行うことができた。
- 事前に子供たちの家庭からいただいた情報を1日目を終えた時点で、子供の姿と合わせてみ返すことで、効果的な対応の仕方の見直しを図ることができた。

9 今後の課題

- ボランティアからの活動細案の提出が遅れ、事業の詳細が直前になるまでわからないことがあった。おおよその方向性を、早い段階で決められるように、職員とボランティアとの打ち合わせを綿密に行っていきたい。
- ボランティアからの活動細案等の提出が遅れないよう、当日までの日程表を作成し予定表に沿って企画を進めていくようにし、ボランティアとの共有をしっかりと図っていきたい。
- 振り返りカードは有効であったが、さらに効果を上げていくためには、前回の記述をしっかりと確認する場を確保・共有し、前回の活動を踏まえて、個人・全体としてモチベーションを高めて次回の取り組みをしていけるようにしたい。



(春：森で遊ぼう・来拝山)

(秋：秋の立少・野外炊事)

(冬：雪遊び・障害物レース)